

2021年1月10日(日)

# バードウォッチング入門⑩

～冬の猛禽類～

冬になると、きらら浜周辺では様々な猛禽が獲物を求めて飛来するようになり、観察できる機会も増えます。生態系の頂点に位置する猛禽類を観察しながら、種類ごとの違いや生態を学びました。



最初はレクチャールームで猛禽類の説明。冬の園内で観察できるタカの仲間とハヤブサの仲間の特徴を紹介しました。



観察ホールからは干潟で魚を狙うミサゴが見られました。飛翔中は腹面の白色がよく目立ちます。



野外観察の前に、公園ボランティアグループ「葦の会」のメンバーによる双眼鏡の使い方の紹介。



厳しい寒波のため、樹林帯で風を防ぐことができる西側の園路まで速やかに移動しました。



園路のそばにカモ類の羽根が散らばっていました。園内で見られる猛禽類では、オオタカがよく捕食します。



ヨシ原上空を飛翔するチュウヒを観察。翼を浅いV字型に持ち上げて滑空するのが特徴で、ネズミや小鳥などを狙います。



飛翔中のトビを観察。死んだ動物や魚などが主なエサで、空高く飛びながら探します。



西側の園路では、ノスリも時折姿を見せました。草地や農耕地で見られ、ネズミやカエルなどの小動物を狙います。



最後に干潟でコチョウゲンボウを観察。園内では潮が引くと杭やカキ殻の上にとまることがあります。



コチョウゲンボウは今回唯一確認できたハヤブサの仲間でした。メジロなどの小鳥を猛スピードで追いかけて捕らえます。

**今回は5種の猛禽類を観察できました。猛禽類が見られる環境はエサとなる生き物も多く、自然の豊かな環境が保たれているといえます。**